

■**米国**：ダイナジーがデューク・エナジーとECPから合計**1,250万kW**の発電設備を取得  
独立系発電事業者（IPP）大手のダイナジー社（本社テキサス州）は2014年8月22日、デューク・エナジー社およびエナジー・キャピタル・パートナーズ（ECP）社（北米のエネルギー・インフラを対象とした未公開株式投資会社）からそれぞれ610万kW、28億ドルおよび640万kW、34億5,000万ドルの発電設備を取得することで合意した。デューク・エナジー社の11発電所はPJM管内に、ECP社の10発電所はISOニューイングランド（ISO-NE）管内に位置する。デューク・エナジー社からは小売供給会社も取得する。この取得により、ダイナジー社は全米に約**2,600万kW**の発電設備を所有することになり、現在の所有規模から倍増する。取得発電設備のうち、**505万kW**は近代的なコンバインド・サイクル天然ガス火力であり、**379万kW**は環境規制に対応済みの石炭火力である。また小売供給会社の取得によりイリノイ、オハイオ、ペンシルベニア、ミシガン州の自由化市場で小売供給事業を展開することになる。今後、連邦規制エネルギー委員会（FERC）による承認、ハート・スコット・ロディノ法（独占禁止法）に基づく手続き等が必要となるが、**2015年第1四半期末**までに一連の手続きが完了するものと見込まれている。